

筑波大学附属駒場高等学校における特色と魅力

1. 教育目標

「自由・闊達の校風のもと 挑戦し、創造し、貢献する生き方をめざす」

「挑戦」とは、既成の価値観にとらわれがちな自分自身に立ち向かって、新しい世界を切り開こうとする精神面での姿勢をさしています。

「創造」とは、本校の校風である「自由・闊達」の具体的な表現で、柔軟にのびのびとすべてに意欲的に取り組もうとする行動面での姿勢をさしています。

「貢献」とは、自らに「挑戦」し、「創造」した結果として実現したものを、社会に役立てることをさしています。

本校ではこの理念のもと、生徒自らが学ぶ態度の涵養に努め、国際社会で活躍できるトップリーダーの育成をめざしています。

2. スクール・ミッション（社会的役割）

本校は国立大学の附属学校として、教育に関する研究や教育実習に協力し、また、国や地域の教育をけん引する拠点校をめざして研究開発を実践していく使命を担っています。

- ① 先導的教育拠点として、これまで20年間継続してきたSSH（スーパーサイエンスハイスクール）研究開発事業の成果をまとめ、発信する。
- ② 教師教育拠点として、筑波大学やその他機関の教育に関する研究に協力し、教育実習校として教員養成の機能も担う。また、本校の教育研究や実践を公開し、中等教育の充実と発展に資する。
- ③ 国際教育拠点として、生徒の海外派遣や国内での国際交流を通して、国際社会で活躍できる人材の育成をめざすとともに、ICTを利用したオンライン交流のより充実した活用方法を検討する。

3. スクール・ポリシー（3つの方針）

(1) グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校の教育活動における方針は、「学業」「学校行事」「クラブ活動」の3つの教育機能を充実させ、学校という場で生徒の全面的な人格形成を促し、発達させていくところにあります。新しい世界を切り開き、未来をけん引するリーダーに必要な以下に挙げる資質・能力を育成します。

- ① 学んだことを未知の分野にも柔軟に適用し、発展させていくことができる
- ② 多様な価値観・意見を持つ他者と合意を形成し、協力して問題解決に取り組むことができる
- ③ 活動の基盤となる体力や健康を維持・管理できる
- ④ 文化・芸術・スポーツを愛好し、豊かに関わることができる
- ⑤ 社会が抱える課題を見抜き、状況を的確に分析・判断し、解決策を見いだすことができる

(2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

○ 教育課程

「教養主義」の精神のもと、成長期に必要な「こころ」と「からだ」の全面発達を促し、豊かな「感性」と幅広い「知性」の両面を育む本校の教育課程には、以下の特徴があります。

- ① 文理別のコース等を設定せず、どの教科もバランスよく配置されたカリキュラム構成
- ② 進度ではなく深度を重視する高度な専門性と学問の本質を見据えた教材による教科指導
- ③ 「水田学習」「地域研究」等、フィールドから発展的に学び、深く探究する総合学習
- ④ 成果・課題を共有し、情報の交換や討議による学び合いを重視する授業展開

○ 評価の方針

各教科等の特性に応じた観点と方法によって評価基準の策定を行いますが、以下に挙げるような観点について重視します。

- ① 単に知識の定着だけでなく、次の学びへどのように適用し、活かすことができたか
- ② 探究や学びの共有を通して、獲得した成果をどのようにまとめ、発信することができたか

(3) アドミッション・ポリシー（入学者受入れに関する方針）

「学業」「学校行事」「クラブ活動」が人格形成の場として機能するためには、いずれも生徒自身が主体的に取り組むことが必要です。授業での学び、行事やクラブ活動の企画・運営にも主体的に取り組む日常を通して、学級や学年、クラブという組織の活動が社会の構図を学ぶ場となり、そこで発揮される個性や生まれる多様な価値観を共有し、自己理解・他者理解を深めながらリーダーシップとフォロワーシップを養成する場となります。これら学校文化として受け継がれている「自由・闊達」の校風と「自主・自律」の精神を理解し、自己を高めようとする以下のような生徒を求めています。

- ① 好奇心・向上心・探究心・成長意欲の旺盛な生徒
- ② 他者を大切に思う誠実かつ謙虚な心を持つ生徒
- ③ 直面する課題に立ち向かう強い意志を持つ生徒
- ④ 異文化や多様な価値観を受け入れ、尊重する姿勢を持つ生徒